行 事 報 告 書(研修)

報告者:樋口　和久

行 事 名	2025年10月度　自然観察会
実施日時	2025年10月9日(　木曜日　)　10時10分　～　14時半　　天候:晴れ
場　所	宝塚自然の家周辺
テーマ	秋の植物観察
講師	華崎律子さん(全体リーダー)、高山さん
参加者数	21 名
内容 (項目と概要)	観察コース　:JR武田尾駅10:25発のバスに乗車 西谷小学校前～宝塚自然の家～松尾湿原～BBQ 広場(昼食)～周辺の観察 ～宝塚自然の家～西谷小学校前　　バス乗車14:48でJR武田尾駅へ 10;25 分発のバスに 17 名が乗車、西谷小学校前で 1 名合流して 18 名で観察開始 宝塚自然の家で 3 名と合流して計 21 名での観察会 ◎西谷小学校前から宝塚自然の家まで 西谷小学校前でバスを下車して、本日の観察リーダー華崎律子さんから本日の観察コースの説明があり観察を開始。 開始早々に道端には赤い実をびっしり付けた、アメリカハナミズキ、道端のノアサオが眼に飛び込んできた。ここでは白花ゲンノショウコ、ヤナギハナガサ、イヌタデ、コニシキソウの小さな草本の観察が続いた。その後臭いがハイターに似たワレモコウ、赤花ゲンノショウコ、根生葉が食べられるツリガネニンジン、葉が牛の額に似たミゾソバの群生、アキノノゲシ、茎が四角で食べられるアオミズを観て道を進んで行った。道端は草本観察の宝庫で他にも、アキノタムラソウ、ウシハコベ、ヤマハッカ、ヤマノイモとオニドコロの違いの説明を聴き、竹藪に鈴なりのスズメウリの実を観察した。道端のヒメミカンソウ、ザクロソウ、ヒロハフウリンホオズキを観察しながら、宝塚自然の家の入口の登り坂に到着した。キクイモの鮮やかな黄色い花の群生を見ながら坂道を進むとミヤマガマズミの赤い実、旗弁が後に反りかえっているのが特徴のツクシハギが道両側に広がっていた。トキリマメ、ナツフジの実、ツルリンドウの可憐な花を観察して、入口近くでママコナを見つけた。自然の家に到着して、3 名と合流して、自然の家のスタッフから、スズメバチの営巣についての注意を受けて、松尾湿原に向かった。道中にも、アケビの実、サルトリイバラの実、ウメモドキの鈴なりの赤い実を観察して、松尾湿原に着いた。湿原では、ホザキノミミカキグサ、サワギキョウの花が見られた。その後昼食場所に移動して、昼食を摂った。その周辺でも、センボンヤリ、センブリ、フユノハナワラビを観察した。 ◎BBQ 広場で昼食後、周辺山側湿地の観察のため宝塚自然の家を出て畦道を進んで行くと、そこには、ツリガネニンジン、花に毒が有るセンニンソウ、オケラ、茎に刺が有るウナギツカミ、アキノキリンソウ、タムラソウ、ヤマラッキョ、イヌヨモギ、イヌセンブリ、星型の花のタチカモメズル、ウメバチソウと多くの種類の植物を観察した。ウメバチソウの雄しべは、7日かけて1本ずつ順に伸びて反り返っていくので、花を見ると開花何日目かが分かるとの説明もあった。目的の花も観られ、バスの時間が迫ったので、西谷小学校前バス停を目指し、道すがら、ゴキズル、ツルニンジン、の花も観察した。
感想	宝塚自然の家は敷地内の湿地にも多くの植物が観察出来るし、周辺山側湿地には、タムラソウ、イヌセンブリ、ウメバチソウ等希少な植物の宝庫です。花の満開時に再度訪れたいと思いました。

写真：樋口

全　体　写　真

ウメバチソウ

松尾湿原

イヌセンブリ

ホザキノミミカキグサ

タムラソウ

ツルリンドウ